

日程：2013年8月22日(木)

講義 国外調査(ポートランド) インタートワイン

講師：マイク・ウェッター

文責：広島県神石高原町 伊藤 邦夫(研修生)

○ 組織の特徴・コンセプト

インタートワイン・アライアンスはポートランド都市圏の自然保全活動を行う連合組織であり、市やメトロ（広域行政体）といった公的機関、非営利団体、公園管理機関など100近くの団体によって構成されている。

自然を重要なステークホルダー（利害関係者）として位置づけており、コロンビア川とウィラメット川を中心とするオレゴン州とワシントン州の2つの地域にまたがる活動に重点を置いているが、こうした州境を越えた協働活動は独自のアプローチとして他の地域からも注目を集めている。組織のコンセプトは大きく2つあり、1つはリーダーが協力する場をつくること、もう1つは（静かな）巻き込みである。

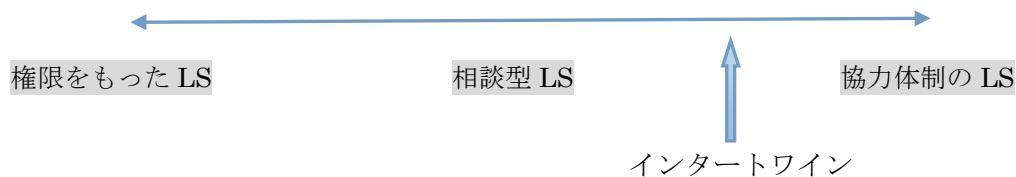
○ リーダーが協力する場

インタートワイン・アライアンスは2007年に誕生した比較的新しい組織であるが、その活動の始まりはメトロの一員としてスタートしている。組織の将来とより新しいアイデアを出すことができるように、設立当初から少人数でグループ内のリーダー同士が集まり、月2回の話し合いを続け、2年前にNPOとして独立した。

行政から離れることによって、幅広い人たちとの交流が図れるようになり、交通、開発、自然といった様々な財源の調達が可能になったことが利点として挙げられる。

また、そのリーダーシップのあり方は、下図のように表現できる。

【リーダーシップ (LS) 図】



より多くのパートナーシップを得るために、各団体のリーダーにインタートワインの趣旨を理解してもらい、その信用・説得力が増すことによって資金、団体をさらに集めるという循環を生み、6年という短期間に成長を築く要因となったと考えられる。

さらにその協力体制が行政サイドも動かした事例として、自然保護計画の策定にあたって従来かかっていた経費の1/40で完成し、より詳細な森林の存在を網羅した中身のある計画となったことによって、州政府から共同作業の依頼・要請が来るようになったことも実績としてあげることができる。

○ 静かな巻き込み

マイク・ウェッター氏がインタートワインの活動の趣旨を説明された時、インタートワインはあくまで隠れ蓑でしかなく、自然を知ってもらい、構成団体が仕事がしやすいようにすることが一番であり政策主張は2の次であるという言葉が非常に印象的だった。

つまり、インタートワインは自然をキーワードに構成団体であるパートナーの興味関心を引き続け、協力し続けていける受け皿であることがその存在意義ということである。

これまでリーダーシップというものは情熱的かつ先導的なものであり、”目だってナンボ”という先入観をもっていた私からするといささか衝撃だった。

多様な価値観を静かに受け止め、パートナーから湧き上がるアイデアをともに実行し結果を共有していく。

これからのリーダーシップ、パートナーシップを実践していく上で、非常に重要な姿勢であると深く感銘を受けた。